

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 (すずらん)		
所在地	小樽市桂岡11-13		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000259&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外の住宅地にある一部2階建て3ユニットのグループホームです。幹線道路である国道5号線から近く、大きなスーパーにも徒歩で行ける場所にあります。理念の一つである「地域に愛され馴染みある生活の継続ができる家」をめざして、地域との交流が自然な形で活発に行われており、運動会やラジオ体操への参加、小学校や幼稚園との交流、災害時の協力などが実現されています。職員がやさしく穏やかに利用者と接しており、利用者は安心して過ごしています。また、法人の支援体制も整い、社員研修の実施やマニュアル、契約書類、記録書式などの面も整備されています。食事においては、各ユニットで独自のメニューを作り、彩りの豊富な食事が提供されています。それぞれの食事を写真に撮り、系列グループホームと競っています。外出の面では、普段から散歩や買い物に出かけるだけでなく、ホームで外出行事を企画して花見や雪まつり、系列グループホームなど、様々な場所に出かけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が地域で生活している事が実感できるよう実践している。	理念の中に「地域に愛され馴染みある生活が継続できる家」という文言を掲げ、地域密着型としての理念を確立しています。理念は毎日唱和し、職員全員で共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や学校、幼稚園の行事に参加したり、訪問していただいて交流している。	「里の家まつり」に地域の方々が参加して頂いたり、町内会の運動会やラジオ体操に利用者が参加し交流しています。幼稚園や小学校の児童が、楽器演奏などを披露しに来て頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出でいき、認知症についての質問に答えるようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。	会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター、消防署、町内会長、民生委員、家族代表などの参加を得て、多様なテーマで話し合い、活発な意見交換がされています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の方とも受診等密に連絡を取っている。	運営推進会議には、包括支援センター職員が参加し情報を得ています。市保護課の職員と情報交換したり、キャラバンメイトなど、認知症を市民の方々に理解して頂く活動をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会（2か月に1回程度）を行い、意識を高めている。	身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、勉強会を開いて職員の理解を図っています。玄関は施錠していますが、利用者の外出を察知して事前に開錠し、圧迫感を防いでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意し合える関係を築いており、新しい書式も加え小さな身体変化も見逃さないようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは講習を受けており、家族様に説明できるようにしているが、現在、該当する入居者様がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前の面談を含め、十分に説明の時間を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	家族の来訪時などに意見を聞いて、やりとりを「対応記録簿」に詳細に記し、職員が共有しています。ホームだよりも毎月発行しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回のエット会議・月1回の合同会議で直接会社で意見を述べる機会があります。	月3回のユニット会議と、月1回の合同会議で意見交換しています。必要に応じて管理者やリーダーとの個人面談も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や研修が自由に出来る様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会は沢山あり、参加した職員は内容を報告する義務がある。エットごとでも具体例を示して勉強会を開いている。会社にも月に一度、レポートを提出する事になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや近隣のグループホームの方が見学に来られ、交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っていると共に家族様にご理解を頂き、ゆっくり時間をかけて慣れていただく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事をしたり、楽しんだり、話し合いの機会を沢山作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と協力をしてご本人様を支える為に職員が出来る事をさせて頂く、という考え方でご家族と話し合い、意見を聞いている。職員とご家族様との関係が良いのが特徴である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったり、友人と会ったり希望に応じる様にしている。時には記憶のあいまいな部分をご家族様に尋ねる等、連絡をしている。	知人との手紙や電話のやりとりを支援しています。墓参りや神社の行事への参加、昔馴染みの場所へのドライブなども実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く同士でお話しをされたり、仕事をしたりする空間は確保されている。認知能力やADLの違いが原因で寂しい思いをしない様、何をおっしゃられても何をされても職員が普通の事として接し、その方の長所や頑張っている事等を話し、尊敬していることを示す事で皆様仲間として認め合って暮らしておられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の入院先には時々顔を見に行く様にしている。ご家族様とは友人との関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の言葉や行動・表情等、職員間で常に情報交換し新しいニーズの発見に努めている。人間像を決め付けてしまわない様、毎日白紙に戻し多方面から見る事も心掛けています。	利用者の表情などから、思いや意向を把握し、会議で情報を共有し対応を確認しています。センター方式のアセスメントシートを3ヵ月毎に見直しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話しを沢山聞く事に時間をとっている。ご家族様が気軽に話せる人間関係を作り、沢山の情報を頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを大切にし、一日の生活のリズムや身体状況等を把握する事に力を入れています。さらに、新しい事にも挑戦していただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を介護計画に取り入れる為、ご家族様と一緒にプランを考える機会を持ったり、職員が代弁者となって利用者様の意見として課題を提供したり、今迄通りにも少しずつ変化がある事に注目している。	3ヵ月毎にアセスメントを行い、会議で職員全員の意見を聞いて、介護計画を見直し作成しています。計画は家族に説明され、介護記録も計画に沿って記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代の申し送りには時間をかけ、記録に目を通す事にしている。毎日一人一人に対して目標を設定して、計画が実践されているか記録している。身体状況を把握できるバイタル表を記載している。会話・気づき・疑問に感じたこと等、記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や入居者様のニーズ(主に身体の変化)に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等に地域や消防の協働を頂いたり、交番とも交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に家族様の希望などで受診を行っている。	協力医による週1回の往診を受けており、提携医や個別のかかりつけ医への通院支援もしています。受診内容を介護記録に記載し、家族にも適切に報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護職員と随時連絡可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様同行で医師との面談の機会を持ち、意向を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は全員終末期ケアを経験し成功しているの、希望があれば対応する準備は出来ている事はご本人・ご家族様に伝えるが、最終的にはご本人・ご家族様・主治医との話し合いで決める事であるから、その決定に従い全面的に支援する心構えを確認し合っている。	重度化した場合の対応について、重要事項説明書に載せて説明しており、実際に重度化した場合は、個別に話し合っており同意書を作成しています。看取りの経験のある職員も多くいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、応急手当等の訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の消防訓練を行い、指導していただいている。地域の協力体制も整えている。	年2回、昼夜を想定して避難訓練を実施しており、消防署や地域の方々の協力も得ています。救急救命訓練も職員全員が受講しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を尊重した対応に心がけ、職員同士が注意し合い実践している。時々初心に帰る確認できる様、注意事項として持っている。ホーム内では勿論ですが、外に出ても充分気をつける様話し合っている。会社からも具体例等を挙げた指導が成されている。	呼びかけ時は「さん」づけを基本に、利用者が希望する声かけをしています。利用者や家族の同意は得ていますが、1つのユニットでは、個室のドアが窓ガラスで中が見えるため、着替え時などのプライバシー確保が、万全でない場面が考えられます。	普段は部屋の中が見えても、着替え時などに、利用者のプライバシーが守られるよう配慮し、工夫する取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の全ての場面で選択や決定を自由に出来る様支援している。他者が意見を押し付ける様な状況では選択して頂かないので、別の機会を作る等工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分たちの都合ではなく、利用者様の都合で動くことを徹底している。「待つて」や「あとで」は禁句にしています。個々の希望に添う事が多い程、意見や気分を積極的に伝えて頂ける事だと考え、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	プライドに配慮しながら整容や着替え等の支援を行なっています。馴染みの理美容院で毎月希望に合わせたカットや毛染めをしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや買い物等、協力して頂いたり下ごしらえの段階でお手伝いして頂いている。お手伝いにも個人差があり、一部の利用者様に限られています。食器洗い、食器拭きも手伝って頂いている。	利用者と職員と一緒に食事しており、利用者同士の会話も活発です。個人差はありますが、食材の買い物や下ごしらえ、後片付け、菓子作りなどを手伝っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に個人差があるので、個別の対応をしている。おやつ等を利用し、不足分を補えるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや支援にて毎食後行っている。変化があった場合、歯科医の訪問診療を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗で傷ついたり、回数が多いことを気にしない様出来る事が良い事で、嬉しい事だ利用者様に思っています。ご本人様と相談して布パンツに替えたり、パットだけにする工夫をしています。	誘導が必要な利用者はパターンを把握し、時間を見て、さりげなく誘導しています。夜にリハビリパンツを利用している方も、日中は自力でトイレを利用できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分補給の他、毎日体操をしたり、ドライブ等行なっている。主治医との連携を密にしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望やタイミングを考慮して行っている。体調を見ながらゆっくり入浴できるようにしている。	週4回程度入浴日の中で、各利用者が2回程度入浴するように支援しています。同性介助や複数による介助など、利用者の安心に配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個人個人の自由で取れるようになっている。個人のリズムに合わせている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬についての情報がいつでも見られるようになっており、従来服薬している部分は把握している。新しく処方された薬について、職員全員でミーティングを行い確認し合っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや役に立っていると思う事に喜びを感じて下さる方には、感謝しながらお願いしている。外出・買い物がお好きな方が多いので機会を多くしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出がお好きな利用者様は毎日でも出掛けられる様支援している。	散歩や買い物のほか、ホームの行事が豊富にあり、マイクロバスを使って様々な場所に出かけています。レストランや回転寿司での外食、系列グループホームとの相互交流も活発です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご希望があれば、ご家族様と話し合い所持する事をご家族様に承認して頂いている。買い物時にレジで支払って頂く機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はどなたも自由に掛けられる様支援している。手紙は一部の方が実行されている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見守りながら混乱や不快感がないよう、支援している。入居者様の希望も取り入れている	居間は家庭的な雰囲気、落ち着いた絵画や見やすい時計、遊び道具などが配置されています。ソファを随所に配置し、寛げる場所を多くしています。温度や湿度も調整されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多めに配置している。2階と1階に共有スペースがあるので、良い状態を保っています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力を頂いて、家具や写真を用意しています。利用者様のお好きな飾り物や家具も追加している。	居室は、利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁にも利用者や家族の写真、カレンダーなど、自由に利用することができます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入居された方には灯りや目印等で居室・トイレ等、分かりやすくしている。長く入居されている方達は、現在その必要はないが、手摺を増やし歩行が出来る様工夫している。			